

サステイナブルキャンパスの構築に向けた構内交通改善の可能性検討

－清華大学における調査及び北海道大学との比較－

北海道大学 大学院環境科学院
環境起学専攻 人間生態システムコース
張 淼

【はじめに】

近年、地球温暖化への関心が高まっている。交通による二酸化炭素の排出は地球温暖化の主因の一つであり、交通安全問題も深刻化している。従って、安全安心かつ持続可能な交通システムの構築は急務である。大学キャンパスは「社会の縮図」と言われており、大学構内において実施した交通の改善に向けた研究提言は実際の社会における交通改善に対しても有用な示唆を与えると考えられる。また、大学構内交通の改善は、サステイナブルキャンパスを構築する上で重要な課題の一つである。北海道大学はサステイナブルキャンパスの実現のため、大学の運営方針決定の判断基準とする「サステイナブルキャンパス評価システム(ASSC)」を作成した。以上の背景を踏まえ、本研究では、中国の清華大学を対象とし、ASSCを適用して構内交通を評価すると共に、アンケート調査の実施を通じて、構内交通の現状を把握し、問題点について改善策を提案することを目的とした。

【方法】

- (1) 2015年9月に清華大学保衛部交通科の担当者に対して、ASSCの評価項目に関する聞き取り調査を行い、調査結果を基に採点した。
- (2) 2015年8月中旬～9月中旬に大学関係者(学生・教職員・教職員の家族など)と構外者(訪問者・観光客など)に対してアンケート調査(対面調査)を実施した。大学関係者と構外者を対象とした調査票の有効票数はそれぞれ462枚、114枚である。

【結果及び考察】

聞き取り調査やアンケート調査の結果から以下の事柄がわかった。(1) 清華大学は構内交通環境の改善について様々な対策の立案を行っているが、周辺地域との空間的な連続性を確保するための方策が交通計画に含まれていない。(2) 車両、歩行者、自転車の数を抑制するための現状評価を実施しているが、次のアクションにつながる体制が構築されていない。(3) 構内の深刻な交通渋滞を改善するためには、自転車と自動車の動線確保のために自転車、自動車、及び歩行者の各交通モードの分離と共存を考える必要がある。(4) 大学から遠い地域に居住している大学関係者や構外者の構内外での交通手段のスムーズな転換が求められ、解決策の一つとしてレンタサイクルシステムの導入が考えられる。